**説明会（H26.5.30）の概要**

１　日時・場所

　日時：平成２６年５月３０日（金）

昼の部…午前１０時から午前１１時４５分

夜の部…午後６時３０分から午後７時４５分

場所：高知市朝倉戊375-1　高知県立ふくし交流プラザ

　参加者：昼の部２３人、夜の部１２人

２　質疑応答の概要

質問：南棟１階の厨房が病棟部分を圧迫していないか心配している。病棟の実際の床面積はどのぐらいあるか。病室の広さは十分に確保されているか。

回答：資料を作成して後日回答させていただきます。（※ホームページに掲載しています。）

質問：病室のベッド数に変更はあるのか。

回答：変更はありません。（病床１９床＋短期入所８床）

　質問：フロアスペース（横になって休める柔らかい素材の床のスペース）は肢体不自由児にとって重要なスペースであり、今の設計面積では足りない。

回答：今後、実施設計の中で検討させていただきます。

　質問：現在、乳幼児健診で発達障害の疑いがあると言われた場合、診察は半年待ちとかいう状況で、なかなか診察を受けられない。施設の充実によって、今の状況は改善されるのか。

　回答：平成２４年にギルバーグセンターを設置して、不足している医師等の専門職の養成に取り組んでいますが、１年２年で養成するのは難しい状況です。できるだけ早く、待ち時間を短縮できるように取り組んで行きたいと考えています。

　質問：例えば医療センターや医大では、電子カルテで１人の患者の情報をいろんな診療科で分かるようになっている。建物の建て替えと一緒に、システム的な部分も改修して、利用者に対してトータルでの支援ができるようにして欲しい。

回答：電子カルテの導入について、現在検討を進めております。

　質問：今、難聴幼児通園センターかろう学校かどちらかを選んでくださいという形になっているが、建替に伴ってろう学校との役割分担に変更はあるのか。

回答：新施設でも変更はありません。

　質問：調理室の規模について、子鹿園分校の学生数が増えてきているが、今以上に学生が増えた場合もここで食事を作れるのか。

回答：食数を増やすのは、回転釜やオーブン等機器の変更で対応可能です。現時点では１５０食ぐらいに対応できる設備の導入を考えています。

　質問：子鹿園分校では通学生が増えてきており、送迎の時間に交通渋滞が起きている。サービス出入口から通り抜けができないか。

回答：センターの病棟から生徒が通学するための通路を確保したいと考えているので、安全上通らない方がよいと考えています。

　質問：診療部門では診療科ごとに待合が設けられているが、通所支援部門では自閉症児と肢体不自由児の待合が一緒になっており、個別の待合を設けるよう検討して欲しい。

回答：実施設計を進めていく中で、検討していきたいと思います。

　質問：今の児童相談所と療育センターの延べ床面積よりも、新しい建物は狭くなるとのことだが、１０年２０年経った時に、今後増えていくであろう子鹿園分校の学生や虐待を受けた子ども、障害児への対応が、この面積で可能なのか。

回答：面積が小さくなったのは、元々１３０床の入所施設だったのが、１９床プラス短期入所の８床の施設となったことや、現在使われていない手術室があるなど、全体としてダウンサイジングしたことによるものです。

一方、今後の外来の増に備えた予備診察室の設置や、複数の相談室を設置するなど、機能面の充実を図る計画としております。

　質問：児童相談所や療育福祉センターを利用している人は、１０年前と今とでは増えているのか。

回答：平成１１年以降で言うと、外来の患者数は増えている一方で、入所している子どもの数は減っています。

児童相談は、１０年前と比べると相談件数は少なくなってきており、年間８００件程度で推移しています。

　質問：工事中も従来通り診療が行われるのかについて、どうやったら知ることができるのか。文書で連絡する等の対応をして欲しい。

回答：工事の間も外来やリハビリ訓練、通所支援はそのまま継続する予定です。工事期間中の駐車場や窓口の変更等については、できるだけ早く、窓口への掲示やホームページ掲載など、関係者に情報が伝わる方法を検討したいと思います。

　質問：説明会の開催について、「さんＳＵＮ高知」に掲載する予定はないか。

回答：センターを利用される方には、利用間隔が長期間空く方もいらっしゃいますので、そういった方々にもできるだけ情報が伝わるような方法を検討していきたいと思います。

　質問：レントゲンの機材や文書のシステムは、建替えとともに新しくなるのか。

回答：レントゲンは電子データでやり取りできるように新しくし、電子カルテも導入する方向で検討しています。

　質問：在宅酸素の患者が施設を利用する際、手持ちのボンベから施設からの供給酸素に切り替えたい場合に、施設のどこでそれが可能になるのか。

回答：今後実施設計の中で検討していきます。

　質問：災害による長期避難の際に、避難スペース（会議室）において、非常電源で人工呼吸器が使用できる状態となっているのか。

回答：非常電源については、病棟に優先的に整備しなればならないと考えています。療育福祉センターだけで、県下すべての重度の方を受入するのは不可能なので、昨年度、土佐希望の家に避難スペースを整備させていただき、今年度は幡多希望の家にも整備する計画があります。そういった施設と協力しながら進めていくことになります。

また、災害時には拠点病院が決められているので、重度の方については、そちらへの避難も選択肢の１つとして考えていただきたいと思います。

　質問：「工事の期間中には、狭くなってみんなを受け入れられなくなるから、訪問リハとかを探しておいた方がいい」と職員に言われたという話があった。利用者は職員に相談に行くので、職員に建替計画の情報を周知しておいて欲しい。

回答：今のところセンターの機能を維持しながら、工事を進めていく予定ですが、それに伴ってリハビリの枠が少なくなる可能性はあります。

職員に対しては、いろいろな機会を捉えて、周知を図っていきたいと思います。

　質問：最近の主要な建物は免震構造になっているが、この建物が免震構造になってないのは大変残念だ。地域の一時避難所にもなるので、建て直すなら免震構造にして欲しかった。

回答：免震構造を採用しなかった理由は、免震構造でない子鹿園分校と渡り廊下でつなぐこと、北棟と南棟の間が狭く、免震構造とする際に必要な建物間の距離を確保するのが困難だったことによるものです。

　質問：「子ども総合センター」という名称について、子どもの頃に発達障害という事実すら知らないまま、大人になった人が多々いると思うが、「子ども」と付くと大人は行ってはいけないのかなというイメージがつくのでどうかと思う。

回答：１８歳以上になって来られる方もいますので、そういったことも踏まえて、ご意見も伺いながら決めていきたいと考えています。

　質問：もし「子ども」の名称が外れることになったら、外来の意味もまた違ってくるように思うが、その場合、外来に大人も行けることになるのか。

回答：外来については、主たる対象者が子どもであるということについては、これまでと変わりません。

　質問：利用者の入口である正門は、平日は７時ぐらいまで開いているが、日曜祭日は閉まっており、裏からしか入れない。新建物ではどうなるのか。

回答：休日の運用をどうするかは、今後検討していきます。

　質問：外来の部屋が増えているが、その分医師の数は増えるのか。

回答：医師については、非常に確保が厳しく、現在のところは体制を強化する予定はありませんが、部屋を増やしているのは、新たに医師に来ていただいた時のために予備の診察室を設けて、ハード面での体制を取っているものです。